



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

1. 7 月下旬頃に成熟する中晩生のモモ新品種「岡山 PEH10 号」の育成

[要約]

7 月下旬頃に成熟するモモの新品種「岡山 P E H10 号」を育成した。本品種は、果肉が白くて果皮着色が少なく、花粉を有する。また、糖度が高く、食味が優れ、生理障害の発生が少ない特性である。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

岡山県のモモの基幹品種である「清水白桃」は、気象変動の影響により、年によっては生理障害が発生し、収量や果実品質が安定しない。そこで、「清水白桃」の不安定な生産性を補完するために、生理障害の発生が少なく高品質なモモ新品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 本品種は「岡山モモ 2 号（砂子早生/自然交配）」に「華清水（清水白桃の枝変わり）」を交配し、得られた交雑実生個体について選抜し、育成した品種である。
2. 開花期は「清水白桃」より 1 日程度早く、花粉を有する。収穫盛期は 7 月下旬頃で、「清水白桃」より 4 日程度遅い。核は粘核で、核割れや生理的落果は少ない（表 1）。
3. 果実重は 290 g 程度で、糖度は「清水白桃」よりやや高く、果実硬度はやや高い。裂皮の発生程度はやや大きい、水浸状果肉褐変症及び赤肉症の発生程度は小さい。果皮着色の程度は「清水白桃」とほぼ同等である（表 2、図 1）。
4. 生産者による「岡山 P E H10 号」の栽培の意向は、6 割程度が「積極的に導入したい」または「どちらかといえば導入したい」の評価であり、普及が見込まれる（図 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「岡山 P E H10 号」の名称で令和 7 年 11 月 19 日に品種登録された（第 31463 号）。
2. 調査を実施した令和 4、5 及び 6 年度における供試樹の樹齢は、「岡山 P E H10 号」がそれぞれ 4、5 及び 6 年生、「清水白桃」がそれぞれ 12、8 及び 9 年生である。いずれの年も両品種ともオレンジ果実袋（無底）で被袋した。
3. 若木期は果実が小さい傾向である。一方で、成木期になり果実を過度に大きくすると裂皮が発生することがある。
4. 県内における本品種の栽培適性を評価するため、県内 11 か所で現地適応性試験を実施している。
5. 苗木は当面県外へ供給しない。



[具体的データ]

表1 「岡山PEH10号」の生育特性

品種 ^z	開花盛期 (月/日)	収穫盛期 (月/日)	花粉 有無	核の 粘離	核割れ果 率(%)	生理的落果 率(%)
岡山PEH10号	4/2	7/26	有	粘	8.3	0
清水白桃	4/3	7/22	有	粘	41.7	22.6

^z 岡山PEH10号：育成地における令和4～6年の平均値（4～6年生、2樹ずつ）

清水白桃：育成地における令和4～6年の平均値（12年生、8～9年生、2樹ずつ）

表2 「岡山PEH10号」の果実品質及び生理障害

品種 ^z	果実重 (g)	糖度 (° Brix)	果皮 着色	果実硬度 (kgf)	裂皮 ^y	水浸状果 肉褐変症 ^y	赤肉症 ^y
岡山PEH10号	291	14.5	微	1.0	0.8	0.04	0.07
清水白桃	348	13.7	微	0.7	0.2	1.10	0.30

^z 岡山PEH10号：育成地における令和4～6年の平均値（4～6年生、2樹ずつ）

清水白桃：育成地における令和4～6年の平均値（12年生、8～9年生、2樹ずつ）

^y 0:無、1:微、2:少、3:中、4:多の5段階で達観評価

図1 「岡山PEH10号」（左）及び「清水白桃」（右）の果実外観

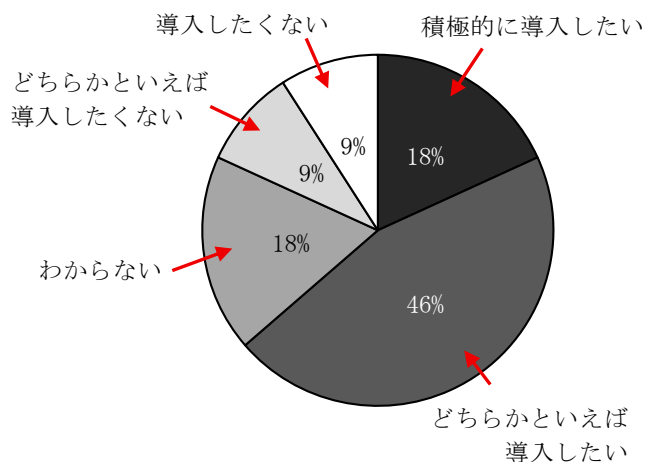


図2 「岡山PEH10号」の生産者による今後の栽培の意向

[その他]

研究課題名：県育成モモ新品種の高品質安定生産技術の開発

予算区分・研究期間：県単・令6～10年度

研究担当者：鶴木悠治郎、樋野友之、佐々木郁哉、吉村諒介